

よ う こ そ

50年後の 君たちへ



(上) <750われら念仏同行>バッジ
をタイムカプセルボックスに
入れて800回大遠忌に送ります。
(水曜学校の子どもたち
2月15日)



(左)それぞれの思いをこめて
バッジにメッセージを
書きました。(1月16日)

第 24 号
浄土真宗本願寺派
円光寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL097-527-6916
FAX097-527-6949

親鸞さまの大遠忌の円成です

ご本山・京都西本願寺で昨年四月九日に始まつた親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が、一月十六日御正當のご満座で円成いたしました。

円光寺では三年前より、五十年に一度のご勝縁に共々に遇わせていただきましたしようと、ご門徒有縁の皆さんに「いっしょにいこうえ」と呼びかけ、「円光寺しんらんさま七五〇プログラム」を進めてまいりました。

二〇〇九年夏には門徒会館「あんのん館」を建設、親鸞聖人の御尊像並びに御絵伝をお迎えするなど、記念の事業もさせていただきました。

この一年間は、三月の大海組お待ち受け法要に始まり、ご本山の法要に幾度も参拝させていただくなど、本當に尊いご縁になりました。

たくさん催しものを行いました。これもただ一つ、一人でも多くの方にご縁に遇ってほしいという願いからです。多くのご門徒有縁の方々にご縁を結ばせていただきました。本當に有難い大遠忌のご縁になりました。

円成とは、円満に成就する、願いが適うということ。もので、ものごとの大きな節目を意味しますが、実はこれからが大事なのです。

日常にかえります。普段の生活です。私たちのかえるところは、南無阿彌陀仏ただ一つ、阿彌陀さまのお浄土・俱会一処の世界とお聞かせいただいております。

お念仏申す生活です。阿彌陀さまのご本願を聞いて信心いただいでくれよ、お念仏申してこの人生を生きてくれよと、親鸞さまはおすすすめです。如来の大慈に抱かれて、いよいよ御恩報謝の日暮しをさせていただきますでしょう。

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要
円光寺歴代お三方年回法要



内陣余間に荘厳壇をつくり
写真をご安置して
お三方を偲びました

毎年十一月にお勤めする宗祖御正忌報恩講を、今年は十一月十八日(金)から二十日(日)までの三日間の日程で、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要と、併せて照哲前々住職(昭和41年12月30日往生)五十回忌、ツネ前々坊守(昭和35年2月10日往生)五十回忌、昭然前住職(平成11年11



東光爾英和上(円内写真)にご法話をいただきました
(11月18、19、20日)



108人のご門徒衆と親族有縁の皆さんと一緒に
ご勝縁に遇わせていただきました(11月20日)

月1日往生)十三回忌法要をお勤めさせていただきました。
東光爾英和上(浄土真宗本願寺派司教、佐賀関徳應寺御住職)にご出講いただき、浄土真宗のご法義をゆつくりお聴聞させていただきました。二十日には巖水敏哉御導師(坂ノ市流芳寺御

住職)のもと、百人を超えるお同行と本堂いっばいにお正信偈さまのお勤めができました。本当に感無量であります。歴代の住職坊守はじめ先人が伝え遺してくださったお念仏の土徳をあらためて深く受けとめる尊いご縁になりました。



声高らかにお正信偈さまを
唱和しました(11月19日)

二十日の法要後ハ七五〇われら念仏同行Vバッジの通し番号でお楽しみ抽選会を行いました。液晶テレビ・デジタルカメラなど電化製品、東北産の日本酒・ラーメンなど東日本大震災支援物品、新米・サラダ油など日用品等、総額七万五千円の豪華賞品で大いに盛り上がりました。



お楽しみ抽選会のようす
(下)特等「液晶テレビ」が当たった瞬間(11月20日)

世々生々

住職継職法要を機縁に寺報「ようこそ」の発行を思い立った。創刊号の小欄に人生五十年の思いを書いた。あれから十年が経った。そして今年、還

暦を迎える。◆十年ひと昔と言う。振り返れば、遙か遠い日の出来事のように思い出すこともある。つい昨日のことのように鮮明に思い起こすこともある。いろんなことがあった。ままならない人生だと思ってしまう。◆それは我が身のことだった。体調を崩し体重が激減した。今は一日三食しっかりいただく規則正しい毎日である。食べるものが何でもおいしい。たまにいただくお酒がこれまたおいしい。日常生活の生活が何とも有難い。◆生きることは食べること、生活の基本である。食べなければ死んでしまう。実は食べても死んでしまう。◆仏法聴聞は食べることだとと言われる。生きることは聞くこと、聞かなければ死んでしまう。「まかせよ、必ず救う」の南無阿弥陀仏のお喚び声を聞かせていただく。生老病死の苦悩のいのちをそのまま引き受けて、仏のいのちに生まれさせてくださる。日頃から仏法聴聞怠りなく、人生の残り時間を精いっぱい生きたいと思う。



お朝事『法話』より

いのちをいただく

東京築地の今年最初の初競りで、マグロが一本五六四九万円で取引されたといひます。御祝儀相場とはいへ、昨年の価格からいうと二千四百万円も上がつて、何か天井知らずのような感さえあるといふことです。

五六四九万円と聞いてすぐ想像できませんが、一つ五百円の弁当を一日三食で百年食べられるという計算です。この辺で家を建てるのでしたら、二軒分はある計算です。そのマグロがこの数日できれいに人間様の胃袋に入ってしまうのです。

お寿司の全国チェーン店が買上げたそうです。銀座の高級寿司店でしたら一カン数万円もするものが、この寿司店では通常と同じ数百円でいただけるという事です。大きな赤字覚悟のお客さまへの大サービスといひますが、これもお商売、天下のNHKをはじめ全てのテレビ局・新聞等々でトップニュース扱いで取り上げられ、社長さんはテレビ出演までして、これ以上ない宣伝になったようです。

売上の大半は漁師さんに入るのですが、誰が儲かった誰が得したといつて、このマグロさんには一銭も支払われません。金子みすゞさんに『お魚』という詩があります。

海の魚はかわいそう。
お米は人につくられる、
牛はまき場でかわれてる、
こいもお池でふをもらう。
けれども海のお魚は
なんにも世話にならないし
いたずら一つしないのに
こうしてわたしにたべられる。
ほんとに魚はかわいそう。
まさにマグロ騒動です。やれ
どうしたこうしたと、人間様の
世界では大騒ぎしてはいますが、
海のなかのマグロさんの世界は
どうでしょうか。
同じく『大漁』という詩です。
朝焼小焼だ
大漁だ
大羽鰯の
大漁だ。
浜は祭りの
ようだけど
海のなかでは
何万の
鰯のとむらい
するだろう。
海のなかではとむらい、お葬
式をしているという金子みすゞ
さんのものの見方、どんないの

ちも愛おしく敬う心を私たちは忘れてはいけなないと思ひます。このマグロさんだけではありませんが、私たちは食事をするときは、せめて手を合わせて「いただきます」「ごちそうさま」と、いのちに向き合つてお礼を申しましよう。大事な大事なあなたなのちをいただくのです。ごめんさい、ありがとうございませぬの気持ちいっぱいに、感謝の心を形にして表したいものです。
忘れてはいけなないといふことです。多くのいのちに生かされては生きていくことを忘れてはいけません。(二月六日)

お朝事にお参りましよう
△ 毎朝6時30分〜7時▽

ご案内

◆春彼岸会

3月20日(火) 13:30~15:00
同 19:30~21:00
3月21日(水) 11:00~14:00

◆花まつりの会

4月 8日(日) 10:00~12:00
(白象パレード、新1年生を祝う会)

しゅうそ こうたん え
◆宗祖降誕会

5月20日(日) 10:00~15:00
(初参式、バザー、もちまき)

◆常例法座

6月15日(金) 10:00~11:30

“月に一度は
お寺参りましよう”



底冷えの京都、寒い中に親鸞さまのご苦勞が身にしみ入りました

ご本山に

お参りしました

一月十五日(日)の大遠忌法要御正當大速夜のご縁に、住職・新院・同行五人でお参りして、ご門主さま、新門さまからお言葉をお聞きいただきました。

門徒報恩講・大遠忌地域法要を
各地区でお勤めしました



岩崎 勉 様方(沖、11月28日)



野口重夫様方(沖、11月25日)



三浦利文様方(新港、11月24日)



山村和弘様方(仲村、12月5日)



岩崎俊孝様方(大村、11月30日)



橋本利男様方(大村、11月29日)



清松博人様方(仲町、12月8日)



中澤 司 様方(板屋町、12月7日)



長野幸弘様方(薬師堂、12月6日)



田中 進 様方(出町、12月13日)



大津智生様方(別保、12月12日)



若杉忠義様方(鶴崎、12月9日)

ようこそお参り
くださいました

冬の朝は寒くて暗い。冷たい風が吹く日もある。
毎朝六時に梵鐘をつく。「はいっ、これっ」白い息をついて、犬の散歩の近所の方があつたかい缶コーヒーをさし出してくれた。
「ありがとう」といいたく。声をかけていたたく有難さ。あたたかい気持ちで今日の一日が始まる。

あ と が き



雨の中、円成記念の写真撮影(親鸞聖人御尊像前で)

『しんらんさま七五〇プログラム』
円成法座
親鸞聖人祥月御命日の一月十六日(月)にお勤めをし、一年間鐘楼横の道沿いフェンスに掲げていた横断幕をはずしました。